

校長室だより No.3

「こども 110 番」の家の方と顔見知り

2022年 4月20日 柏市立土小学校 校長 梅津 健志

今週月曜日から1年生の給食が始まり、全学年が平常日課となりました。そして、今日から3日間は、5時間目終了後に一斉下校をして、子供たちには改めて通学路の安全確認をすると同時に、「こども 110 番」の家の方と顔合わせをしたり、少しお話をしたりして、いざという時に助けを求めやすい関係づくりをしていく機会としました。また、110番を引き受けてくださるお宅にとっては、子供を身近に感じてもらい、様々な気づきを学校等に知らせやすい関係づくりに繋がればよいと考えております。初めての取組みであり、今日のために、昨年度末より、PTAの校外委員会の皆様のご尽力により、学区内全ての「こども 110 番」のお宅や事業所にお声掛けをさせていただき、この3日間の取組みへの準備をしていただきました。教員は、3日間に渡り通学路の状況確認、子供たちの家や周囲の様子を確認、「こども 110 番」の場所の確認に加え、今年から本格的に取り組む土小の学区を活かした学習に向けて、学区の様々な様子を把握する時間としていきます。よろしくお願いいたします。

さて、「こども 110 番」は全国的な取組みですが、その起源についてご存知でしょうか？各県警のHPや自治体のHPには必ずそれぞれの地域での取組み状況が公開されています。柏市では平成9年12月に柏市PTA連絡協議会が中心となり、この制度が始まりました。もう25年も前の事になりますので、なぜ始まったかを覚えている方も少なくなっていると思います。「こども 110 番」の家は、神戸の連続児童殺傷事件という大変痛ましい事件がこの年の2月から5月に発生し、子供たちの登下校のみならず、様々な時間帯において、子供が危険を感じたときに助けを求められるようにする仕組みとして、全国で設置が普及していきました。

当時私は経験10年程度のまだまだ若手の教員でした。子供たちをめぐる安全状況は、車の安全性や街の防犯カメラなどの整備が充実した一方で、人と人のつながりは希薄になり、知らない人に声をかけたり助けを求めたりすることは、子供たちにとって難しい状況になっていると感じます。

そこで、今回は「こども 110 番」という制度を形骸化させないために、また「こども 110 番」という制度を機能させながら地域のつながりをつくっていくために、この3日間「こども 110 番」の家の人と言葉を交わそうという取組みをしようと考えました。子供たちと地域で見守ってくださる方とのよい出会いがあることを期待し、子供たちを取り巻く安全環境がよりよくなっていくことへのきっかけになって欲しいと思います。様々な立場からのご協力に感謝を申し上げます。